

第3回 学校運営協議会 会議録

1、会長挨拶

3回目の学校運営協議会は、郡上で一番ではないだろうか。

中学校でひまわりを植える活動を行ったが、地域が知っていくことが大事。学校は真剣であることを、市民にも伝えるようにやっていく必要がある。

子供たちは言われたことを守るが、苗を植える時に、木の枝で穴を開けるなどを工夫する知恵が必要。生きていくうえで大事。

これまでの資料を基にして良い会にしていきたい。

2、意見交流等

- ・何を期待されているのか。ヤマトの日は、新聞でしか知らないの、それを知って行くようにさせていきたい。
- ・学校を支援する応援団という風に思っているが、学校はこういう経験させたいと思っている。それをこういうことをお手伝いできる。そういうやり取りができるといい。
- ・昨年、ひまわりを咲かせる活動は失敗した。自分は農業の事しか分からない。2年目のひまわり畑の経験をやらせたい。野菜もアドバイザー派遣で、自分で作ったものを食べることも少ない。センターの給食にも野菜を使ってほしいことから考えると自分で育て食べることをやらせたい。「郡上の日」の給食も作ってきた。専門分野でないに関われない。パソコンやボランティアはよくわからないが、休耕地の解決に繋がると良い。基礎的な心に残ること。休耕地の課題を解決しようとする、5年10年後に変わっていくのではないかと。少しずつ関わると変わるのではないかと思うし、ひまわりが満開になると心に残るのではないかと思う。
- ・休耕地の課題が出たが、子供にその意識はない。「good 郡上プロジェクト」をしても、課題が浅いのではないかと。正解のないものに「どう思う？」と投げかけるとか。力を貸していただきたい。すると生の勉強になる。紙やネットで調べた課題はリアルではない。ひまわりを絶対咲かせることを心がけてさせたい。先日のひまわりの苗が余ったものを、「誰か手伝ってくれないか」と呼びかけると先日の経験値で手伝ってくれる。しかし、休耕地の課題の意識はない。地域の課題を洗い出し、第一次産業を気にかけて、大和のことを教えてほしい。
- ・「good 郡上プロジェクト」は中高生に向けたものが多いが、なかなか実感を伴わない。
- ・意見を伺いたい。1回目2回目の説明は承認だから、どうしていくかという会だった。栃木の広瀬さんの話をもとに、学校のために何かではないと思うがどう思う。
- ・大人が頑張りないといかんなあ。大変そうだなあ。誰に向かって言っているのか。PTA執行部に入っているから他の方より詳しく知っているが、ボランティアについて考えてみたけれども、福祉委員として関われないか。どこまで出来るか。継続できるか。しかし、どこにどう伝えていくかが課題。
- ・みんな一生懸命やっている。しかし、一緒に交流活動したいがなかなか難しい。その日に来ても馴染めないし、大人から話題を出しての掃除も難しい。どういう主旨ですか大人に知らせていかないと望ましい姿にならない。来年に向けて今から始めましょう。
- ・ボランティアを考えて行動するよう、先生が色々な活動の団体に来ていただき、一緒に子供を育てる会であることを明確にしないで進まない。この一年は、こうして話し合うことでもよいが、広瀬さんの資料は良いと思う。
- ・この資料を読んでいると疑問が浮かぶか、はっきりしなくなる。休耕地でも同じで木を切って、ただ持って行ってでは伝えてもわからんかもしれない。でも伝えていかなければ何も変わらない。問題を発信していきたい。
- ・3回目の運営協議会であるが、この目標が高いところにある。いきなり進めるのは大変一つずつやるほうがいい。学校の応援団として取り組みやすい「やまとの日」は良い材料である。どういうねらいか、学校が出して、話し合っていきたい。

- ・ボランティアなど中心にして、広瀬さんの資料に近づくものにしたい。
- ・自ら行動を起こすよう、テーマを出してこちらから行う。何のためか。場を作って子供に参加して欲しい。一緒にどういう取り組みをするか。子供たちに意志があるのが良い。この会も意思があるようにして、やらされ感があると疲れる。承認するだけの評議員会のようなものではなく、「やまとの日」を広げよう。ひまわりの種を収穫して、地域に広げて、種をまく。優しく、素直な子供たちは多い。2, 30年前は、ガラガラしてかいしょがあった。色々経験させたい。一緒に汗を流すことができる良い子ができて都会に出た時に流されないようにしていきたい。
- ・過保護だったのが、親が子離れしたり、親が小さな怪我をさせて大きな怪我をさせないようにしたりしていたが、今はなかなか難しい。親を巻き込んでどうするか。昔は、近所のおじさんおばさんに叱られていたが、それもないので親としてもどうするか大事。
- ・学校側から生徒の実態等を聞いてどうするかを考えたりしてあげたい。
- ・協議会から働きかける「やまとの日」に向けて、こうしたら良いのではないか。より多くの人に知ってもらい、一緒に活動してもらおう。そうすると理念に近づいていく。
- ・運営協議会発信で焦点を絞りながら何をしたいか聞いてほしい。大人に言ってもしょうがない。どうせ叶えてくれないのではないか。実態を知るために、頻繁に学校に来るのは難しいかもしれないが、やってもらえるとよい。今は清掃活動をやると決まっているがやりたいか、子供の願いを知りたい。地域の声を聞くのは、先生が言うのとは違う。
- ・理念は広いので、具体的するのは良い。今後、ひまわりでもどんな活動にしたいか。どう広めるか考えたい。どう資料に近づくかやっけていながら熟議しましょう。去年の失敗から、何回も何回も来校してくださった。それぞれ立場として知っている知識をもらいながら、何とか咲かせたいと同じ思いでやっている。
- ・子供たちに、この委員が話しかけたり語りかけたりしながら、活動の工夫や短歌などを行う。大和全体を作っていけるものをこれから話していけたらいい。
- ・「まるっとやまと」の原稿を載せるので見てもらえるように出してほしい。
- ・協議会に関しては、出口の見通しがないと辛い。見通しが年間3月まで何時頃こんな事を話し合いたい。テーブルにあげるものがあるとありがたい。
- ・理想は、学校が聞かれるのはいい。けれども書き出しているがあえて言わない。会長、副会長と作って提案する。評議員会では学校が進んで出していた。しかし今回のように皆さんから、「ひまわり」「やまとの日」をどうするかでている。会長、副会長の話をまとめて行きたい。

3、終わりに

- ・「やまとの日」「ひまわり」「短歌」の三本の柱を大事にしたい。毎回、思いの部分でなく地域を広めよう等のタイムスケジュールをみんなで承認する。これまでに町内に、30年関わってきたことを振り返り、これから「3年間で生まれ育った街だ」と言えるようにしていきたい。「やまとの日」はどう広めていくと良いのか。一つ整理してチームとして、この時間が有意義に、種をまいて育てる。何か胎動するのを感じた。生み出しそれを子供へ。何かを生み出し活動計画につなげたい。

- ・次回は9月3日道の駅で行います(変更等はまたお知らせします)